

北公民館

岡田校区青少年育成会
親子球技大会開かれる

岡田校区青少年育成会では、地域の大人と子どもがスポーツを通して交流を図り、親睦と連帯を深め、健康で明るい町づくり・地域づくりに努めるという目的で、毎年夏に親子球技大会を開いています。今年度は8月19日（日）、岡田小学校で、男子はキックベースボール、女子はレクバレーボールを実施しました。分館ごとに成人、中学生、小学生でチームを編成し対抗するものです。絶対の天気にも恵まれ、熱戦、珍プレーが展開されました。



◀大人も子どももおおいに盛りあがりしました。（キックベースボール）



▼ソーレツ！（レクバレーボール）



各分館の役員さんの方の献身的なご協力で、会場設営や試合の進行などもスムーズに進み、盛況のうちに無事終了することができました。子どもたちは、人の和や連帯感を、この親子球技大会を通して少しでも培うことができましたことと思っております。

当日の試合結果

- ☆キックベースボール
 - 優勝 西古泉分館
 - 準優勝 塩屋分館
 - 第3位 西高柳分館
 - 〃 昌農内分館
- ☆レクバレーボール
 - 優勝 北川原分館
 - 準優勝 西古泉分館
 - 第3位 西高柳分館
 - 〃 恵久美分館

大人が子どもをいたわりながらプレーするほほえましい光景があちこちで見られ、小学生からは、おじちゃんがんばれ、おばちゃんがんばれ、と大きな声援がとんでいました。また、中学生の力強いプレーにもたのしみを感じました。

補導センターだより

「おはよう」のひとことから

岡田中学校生徒指導主事 三好裕士

最近、コンビニエンスストアの店内や駐車場、駅の構内などで、人の迷惑も考えず、地べたに座り込み、おしゃべりに夢中になっている若者の姿をよく目にします。一昔前まではあまり見かけなかった風景ですが、今となってはありふれた日常の一風景になりつつあります。このような振る舞いを目にするたびに、私はその原因を安易に「家庭でのしつけ」というものに求めがちでした。

「家庭の教育力なんてものは昔からなかった、なくなったのは地域の教育力なんです。」この夏、ある講演を聞く機会があり、その中に出てきた言葉です。この言葉を聞いたときは戸惑いがありましたが、話が進むにつれ深く共感することになりました。二世帯、三世帯前の家庭というのは兄弟姉妹が多く、今とくらべて親が子ども一人ひとりのしつけに、多くの時間をかけられたとは思えません。しかし、社会の発展に伴う都市化の波は、かつての田園地

帯に新しい地域社会を形成してきました。この松前町も例外ではありません。親が子どもにお使いを頼み、八百屋の主人がそれを褒め、認めてくれる。褒めることの教育的効果は周知のとおりですが、当事者よりも第三者が褒めるほうが効果も期待できます。毎朝、すれ違う地域の人にあいさつをする。言葉を交わさずには生活できない地域社会の中で、子どもたちは自然に社会生活に必要な礼儀や節度を身に付けていきます。このような光景が、結びつきの弱い最近の地域社会ではあまり見られなくなつたような気がします。

いよいよ来年度からは、学校週5日制が施行されます。そうになると、必然的に子どもたちが地域社会の中で過ごす時間が多くなり、地域社会の教育力にさらなる期待がかかってくると思います。次世代を担う子どもたちの教育について、地域ぐるみで真剣に考え、取り組んでみませんか。まずは「おはよう」のひとことから。